

No 44
31 July 2014

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日
平成26年7月31日

編集
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部
〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-15
シティーマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)内
Tel:03-5545-5100 Fax:03-3588-0776



安倍総理、オニール首相ご夫妻と



ウエワク 平和公園で



ウエワク 洋展台にて

安倍総理がパプアニューギニアを公式訪問

島田 謙三 (当協会事務局長)

7月10日から12日まで安倍総理がPNGを公式訪問されました。友好議員連盟の田中和徳会長、秋葉賢也先生、竹本直一先生をお伴し、協会を代表して総理一行に同行させていただきましたので、簡単ではございますがご報告申し上げます。

公式行事は次のとおり分単位で予定され、全ての行事は大成功で終わっております。ポートモレスビー、ウエワクの街中を白バイ、パトカーに先導され、日本の国旗を振る人々の中を総理の車列が移動する様子は何とも誇らしく感じられました。

日本での報道が少なかったことは残念ですが、現地では「他国の首脳の訪問で、このような歓迎ぶりは例が無い」(PNG政府要人)と言われるほどの歓迎ぶりで、ポートモレスビー、ウエワクともに、沿道の人垣は何重にもなるほどでした。PNGの親日ぶりを改めて肌で感じる事ができ、興奮しながらも大変に嬉しく思いました。

2018年にはポートモレスビーでAPEC首脳会議が開催

されることが決定されており、PNGの発展や地域での役割が増すことは間違いありません。両国の要人の往来も益々増加することでしょう。

今般の総理PNG訪問の成功には、多くの方々のご苦勞があったこともお伝えしたいと思います。PNG側ではお亡くなりになられたベベゴ前公使が中心になられて完璧な準備がなされたとお聞きしました。日本側では橋大使が先頭に立ち、日本大使館、外務省の方々をはじめ多くのスタッフが昼夜を問わず調整準備をされている様子には頭が下がりました。

今回の安倍総理のPNG訪問には、友好議員連盟、尾辻日本遺族会会長、堀江東部ニューギニア戦友遺族会会長、そして多くの企業代表も参加され、オールジャパンの体制で両国関係が益々発展していくことをPNGの人々にご理解いただけたのではないかと、両国の戦後からの歴史を知る一人として感慨深いものがございました。

安倍総理
訪問記録

7月10日	16:00	空港にて歓迎行事
	16:55	総督公邸へ表敬
	17:25	日PNG首脳会談
	19:00	オニール首相主催晩餐会
7月11日	08:45	日PNG投資合同委員会発足会
	10:00	ポートモレスビーからウエワクへ移動
	11:55	ウエワク平和公園にて黙禱、献花
	12:30	ソマレ州知事(元首相)主催昼食会
	14:05	戦没者慰霊碑除幕(洋展台)
	14:45	ブランディ・スクール訪問
	15:30	ウエワクからポートモレスビーへ移動
7月12日	10:00	ポートモレスビー出発



国会議事堂での晩餐会

第11回 理事会および年次総会を開催

中村 弘 (当協会副会長)

去る6月16日霞が関霞山会館に於いて理事会に続き第11回年次総会が開催され私は副会長を拝命致しました。6月2日PNGからLNG(天然液化ガス)の第1船が千葉富津港へ入港するに合わせ祝賀の為オニール首相の訪日があり、又7月10日には安倍首相が日本の首相としては29年ぶりのPNG公式訪問が決まり、最近日本とパプアニューギニア両国の関係は急速に深まって参りました。この大切な時期に大役を命ぜられ微力乍ら気を引き締めて協会の活動を通して両国の友好親善の為に努力して参りたいと思っています。

又この総会に於きまして日本パプアニューギニア議員連盟会長を務められました元衆議院議員の村田吉隆先生に名誉会長にご就任頂きました。是により協会の対外的信用は格段に高まり又今後の活動にも色々ご指導とご支援を頂けるものと思います。

更に此の度3名の理事の退任と後記6名の新理事が選出され協会活動を鋭意推進して頂ける事になりました。その他協会事務所の西日暮里から赤坂への移転が決議され総会

は無事終了致しました。

その後宴会場に席を移し懇親会が催され、是には来賓として国会議員8名(内3名は代理が出席)、PNG大使館からはヌモイ公使とカミル2等書記官が出席され総勢50を超える参加がありました。今年は総理のPNG訪問も間近く議員の方々からも協会の活動に対し評価と激励のお言葉を賜りました。因みにご出席頂きました議員は田中和徳(日本パプアニューギニア議員連盟会長)、坂本哲志、桜内宏、木内均、泉健太先生、代理が出席されたのは山際大志郎、左藤章、輿水恵一先生(敬称省略)であります。

今後のパプアニューギニアはLNGの開発輸出が本格化すれば飛躍的に経済発展するものと思われ又日本PNG間の貿易も計画どおり日本のLNG年間総輸入量の5%が同国から輸入されるようになれば一挙に増大し又是に付随して関連物資の輸出や人の往来も増加するに相違なく、両国の関係は益々深まります。そうした中で我々の協会も尚一層充実した活動が求められて参りますので会員の皆様にはどうか今後ともご協力とご支援をお願い申し上げます。



平成26年-27年度 役員理事リスト

名誉顧問	大河原 良雄	財団法人世界平和研究所理事長、元駐米日本国大使	理事	馬詰 修	三高物産株式会社 代表取締役 会長
名誉顧問	マイケル・マウエ	前 駐日パプアニューギニア特命全権大使	理事(新任)	及川 正博	立命館大学 名誉教授
名誉顧問	ガブリエル・ドウサバ	駐日パプアニューギニア特命全権大使	理事	大沼 京三	株式会社日本墓苑開発センター 代表取締役
顧問	堀江 正夫	東部ニューギニア戦友遺族会会長、元参議院議員 元日本・パプアニューギニア友好協会会長	理事	賀集 イレーネ	アルゼンチン共和国弁護士
顧問	安田 藤一郎	全国ソロモン会 会長	理事(新任)	川口 正義	旭化成建材株式会社 海外事業室 室長、日本旅行作家協会会員
顧問	日本パプアニューギニア 友好議員連盟の諸先生	代表 田中 和徳 (衆議院議員、日本パプアニューギニア友好議員連盟会長)	理事(新任)	喜多村 裕介	元 JICA ポートモレスビー所長
名誉会長(理事)	村田 吉隆	前 日本パプアニューギニア友好議員連盟会長	理事(新任)	郡 修三	株式会社 郡産業 代表取締役
名誉顧問(理事)	谷口 誠	桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問、前日本パプアニューギニア 協会会長、元駐パプアニューギニア日本国大使、元日本国国連大使	理事	鈴木 紀久代	新潟パプアニューギニア協会 事務局長
会長(理事)	山下 勝男	元 駐パプアニューギニア日本国大使	理事(新任)	長 宏行	財団法人 オイスカ 国際協力部 部長
副会長(理事)	唐沢 敬	立命館大学 名誉教授	理事(新任)	西山 肇	前 駐パプアニューギニア日本国大使
副会長(理事)	中村 弘	晃和木材株式会社 前代表取締役 社長	理事(新任)	花井 練太郎	鈴鹿ロータリークラブ会長、鈴鹿国際大学 客員研究員
事務局長(理事)	島田 謙三	前ニューギニア航空日本支社長、日本ビジネスライン株式会社 代表取締役	理事	原 晃	元 PNG 政府外国人契約公務員
理事	阿部 英寿	株式会社 かもめ 代表取締役 会長	理事	福島 正光	株式会社 ビーエムコーポレーション 代表取締役
理事(新任)	井田 徹	晃和木材株式会社 代表取締役 社長	理事	武藤 優	株式会社 パプアニューギニア海産 代表取締役
			理事	村越 裕之	コスモメディア株式会社 代表取締役
			監事	土屋 耕太郎	土屋法律事務所 弁護士
			顧問弁護士	中村 哲郎	小川総合法律事務所 弁護士

委員会

・学術・渉外	唐沢理事(委員長)・井田理事
・奨学生	賀集理事(委員長)・大沼理事
・総務	島田理事(委員長)・長理事・喜多村理事
・行事・Toktok会	原理事(委員長)・鈴木理事・阿部理事・西山理事
・広報	川口理事(委員長)・村越理事
・行事・レセプション	島田理事(委員長)・馬詰理事・武藤理事・福島理事
・組織開発	中村理事(委員長)・花井理事・郡理事・及川理事

事務局

・事務局長	島田 謙三
・事務局次長	大嶋 康弘
・事務局次長	中村 彰
・事務局員	増元 章子
・事務局援助	株式会社ワールドビジネスコミュニケーションズ
・事務局援助	コスモメディア株式会社

第5回「PNGを語ろう会」篠原敏治氏

喜多村 裕介（当協会理事）

5月16日霞山会館にて、約30年間オープンベイの森林開発事業に従事した篠原敏治さんが、「長年パプアニューギニア人と職場を共にして」という自身の体験を語る会が行われました。

篠原さんは、1973年に永大産業に入社後、1976年からオープンベイに最初の駐在しています。2013年3月に退職するまで、都合32年にOPEN BAY TIMBER 亘りに勤務しています。正に、OPEN BAY TIMBER に捧げた半生です。

オープンベイは、ニューブリテン島の北部に位置します。ラバウルから直線距離で100キロ、海上交通路で150キロ、ボートの交通手段しか無く3時間半もかかるということです。

そんな僻地で32年間も働き続けたと言う事実に驚愕します。特に、開発の初期にはインフラと言えるインフラは無いはずで、想像を絶する苦労があったと思います。また、開発が始まって6年後に原因不明の火災で製材工場が火災にあうなど様々な試練を乗り越えています。講演会には、息子さんも参加されていました。その息子さんや奥さんには苦労をかけたと呟いていました。ご家族も大変だったことでしょう。

独立記念日には、約30の部族が終結すると報告されていました。自然条件にめぐまれたパプアニューギニアでは、大規模農業が育たず部族毎に狩猟採集で生計を維持する社会構造が今日まで続いています。このため部族毎に異なる規則・規範があり、多数の部族を纏めるのは大変なことです。30もの部族を取り纏めるに当っては

語り尽くせない苦労があったと推察いたします。

OPEN BAY TIMBERは、14,000haという広大な土地に植林を行い、18年ほど生育し伐採して輸出した後、その跡地に再度植林を繰り返すサステイナブルデベロップメントであるとの報告がありました。ワンサイクルが20年というとても長く長いプロジェクトです。南方の僻地で、未開の広大な土地を対象に20年サイクルのプロジェクトです。どのようにしてこのような壮大なプロジェクトを考え付き、実施する決断に至ったものかと、篠原さんの講演を聞きながら深い感銘を覚えました。

篠原さんは、オープンベイでの経験を通して組織運営と危機対応について教訓を纏められていました。組織運営に関しては、「ぶれない経営信念を持つ」「夢と希望を持つことが出来る環境作り」「自分、家族、会社、社会、自国にプライドを持つことが出来る人間作り」「相手を知ることが大事、合わせて自分を知る」「苦情、相談に来る者に対しては、必ず何らかの返事をする」が大事と語っていました。また、危機管理については、「Labour と Forestry の法を守る」「日々のコミュニケーションが大事」「マニュアルと訓練を徹底しておく」「会議の結論は、現場の状況で決める」「常に最新の状況を把握しておく」「問題は目の前から早く消す」「失敗の経験を大事に」を挙げられて経験を語られました。困難な地、未知の社会、救援を期待できない環境の中でプロジェクトを30年に亘って遂行してきた苦労からしみだした至言だと思いました。



2014年5月26日、ポートモレスビーを出航したLNG（液化天然ガス）満載のタンカー「Spirit of Hela」号は6月3日、無事日本に到着、陸揚げされました。今後20年の長きにわたり日本をはじめとする東アジア諸国に年間約700万トンのLNGを供給するPNG LNGプロジェクトの記念すべき初カーゴです。PNG LNGは標高2000mを越えるハイランズ地区のガス田からポートモレスビー近郊のLNGプラントまで700kmを陸海のパイプラインで結ぶ、総工費約2兆円の大規模なプロジェクトです。

数社のジョイントベンチャーとして構成されるこのPNG LNGプロジェクトを、オペレーターとして開発、操業から販売まで一貫して担当しているのが私どもExxonMobilであり、日本ではExxonMobil LNG Market Development Inc. 日本支店として活動しております。

日本ではExxonMobilという会社名よりエッソ、モービルというサービスステーション、あるいはモービル1に代表される潤滑油ブランドでお馴染みかもしれません。実は日本におけるExxonMobilの活動は灯油販売を開始した120年以上昔に遡るのですが、その後は車社会の進展につれ全国でサービスステーション網を構築する一方、親会社の合併、分割、あるいは事業分野の絞り込

み等による変遷の歴史をたどります。1961年には親会社であったスタンバック社の分割によってエッソ石油、モービル石油の日本法人が設立され、2000年には逆に両社の合併によるExxonMobil社への変更、また最近では2012年の精製、石油製品販売部門の、東燃ゼネラル(株)への売却が記憶に新しいところです。その結果、2012年6月より日本では私どもLNG部門の他に化学品、潤滑油製品を扱うExxonMobil Japan社が新たに設立されそれぞれの事業を運営しています。

石炭から石油、そして天然ガスへという主要エネルギー源の移行を反映して、天然ガス、そしてLNGは益々世間の耳目を集める存在になってまいりました。中でも日本は一国で世界中の約40%のLNGを消費する圧倒的な世界最大市場であります。PNG LNGプロジェクトを通じてLNG供給国の仲間入りを果たしたパプアニューギニアと世界最大市場である日本をつなぐ懸け橋として、日本のエネルギー安定供給に貢献するため、私どもExxonMobil LNG Market Development Inc. 日本支店もより一層努力を重ねてまいりますので、皆様の益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



事務局からのお知らせ

第6会トクク会を8月20日(水)に開催いたします。PNG在住のダイビングインストラクター「中浦景子」さんによる『美しい海と発展が共存する首都、ポートモレスビーでの10年間と、PNGの海の魅力』と題う

てのご講演です。新橋 航空会館にて18:00 からを予定しております。

8月8日(金)には「安倍総理パプアニューギニア訪問の概要と成果を考える会」が同じく新橋航空会館にて14:00から開催されます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

新体制が確立し、協会の活動もどんどん活発化しています。

会員の皆さまのイベントなども「ごらくちょう」「メルマガ」で発信いたしますので、事務局までどうぞご連絡ください。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆法人会員：37社 ◆個人会員：112名 (2014年7月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒107-0052

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ

東京都港区赤坂6-4-15 シティーマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)
Tel:03-5545-5100 Fax:03-3588-0776 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/